

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都 多摩市 永山 1-5 ベルブ永山 209
園名	おだ学園保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ワクワクつながる水遊び～お水って楽しいな～

<テーマの設定理由>

園庭はないですが、ガラス張りになっているエントランスで「水の美しさ」「透き通る氷の美しさ」「色のついた水の美しさ」などを子ども達に感じてもらいたい、また、水や氷、泡などに実際に触れ、夏ならではの水遊びの中で水の心地よさ、美しさを感じてもらいたいと思いました。室内の中で子ども達にワクワクするような遊びを、計画・実行・評価・改善し、次年度に繋げていく為

2. 活動スケジュール

<p>【0歳児】</p> <p>①湯水を手で触りながら、水の感触を感じる</p> <p>②洗面器やビニール袋を使い、手でパチャパチャと叩いてみる</p> <p>③じょうろやシャワーを使い、噴き出す水を触ってみる</p> <p>④ペットボトルやじょうろなどの色々な道具を使い、水遊びを楽しむ</p> <p>⑤シャワーを顔にかけてみる</p> <p>⑥水や色水等色々な水に触れて、気持ち良さや心地良さを体験する</p>	<p>【1歳児】</p> <p>①タライの水に触れたり、手でパチャパチャと叩いてみる</p> <p>②ペットボトルやじょうろなどの色々な道具を使い水遊びを楽しむ</p> <p>③透明な氷をビニール袋に入れ触れる体験をする</p> <p>④透明な水の中に植物や玩具を入れ、凍らせたものに興味を持ち触れたり、溶けたりする様子を楽しむ</p> <p>⑤色のついた氷を見たり直接触ってみる</p>	<p>【2歳児】</p> <p>①プールの中に入り水を手で触りながら、水の感触を感じる</p> <p>②じょうろや水車など玩具を使い、水遊びを楽しむ</p> <p>③魚捕り、洗濯ごっこなど水の中で遊びを楽しむ</p> <p>④氷遊び(かき氷)</p> <p>⑤泡遊び</p>
---	--	---

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

エントランスの水道周りの木枠を石材で加工し、シャワーなど使えるように環境を整える。
準備、プール2個・プール用マット3枚・じょうろ・丸形シャベル・ペットボトル・かき氷機・食紅・
氷・ベビー石鹸・タライ・洗面器・カラーオーガンジー・草花・雨傘用ビニール袋・カップ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

* 活動スケジュールの内容で夏の経験とし、水遊びを楽しんできました。スケジュールの太字部分の活動の内容を報告します

【0歳児】

- ・プールの真ん中にタライを置き、その中に5色のビニール袋を入れ周りにペットボトルで作った金魚の玩具を置き、飾り付けしておく
- ・水を張っていないプールに入り、自由に自分の好きな遊びかたで遊べるようにし、子ども達の様子を見る
- ・保育者はビニールを持ち上げたり、窓からの光で色を反射させて見えるようにしたり、空気の泡が抜ける様子が見られるようにしたりする

【1歳児】

- ・予め食紅で色を付けた水を製氷皿で凍らせた物を用意する
- ・タライにいろいろな色の氷を混ぜてカラフルにし、楽しさを演出する
- ・10人を2グループに分け、タライの周りに座り、自由に氷に触れるようにする
- ・氷を持ち上げ、氷に光が映って見える様子を楽しむ

【2歳児】

- ・ベビー石鹸をおろし金で細かくすりおろし、魔法の粉を作る
- ・粉を入れて手で溶かそうとすると泡が出てくる
- ・保育者がストローで息を吹き込みたくさんの泡を作る
- ・泡を使って個々にイメージした遊びを楽しむ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【0歳児】

こども達は、重たいビニール袋を持ち上げようと、抱っこしてみたり、引っ張ったりしていた。興味津々で見ている子どもも含め、みんなが抱えたり、触ったりする事を喜んでた。

【1歳児】

「なんだろう?」といった表情でたらいに集まる子ども達。たらいに入ったカラフルな四角いかたまりに皆釘付けになっていた。保育者が赤い氷を持ち上げて「赤い氷だよ!」と話すど「あかー!」と同じように声に出して持ち上げていた。氷が冷たかったのですぐに手を放す子ども、我慢しているのかじーっと手に氷を乗せて見つめる子ども、いろいろな色を次々とさわる子どもと様々な姿が見られた。透明な氷は何度か触っているがカラフルなキラキラした氷を不思議そうに眺め、冷たいという感触を感じる事が出来た。

【2歳児】

保:「水の中に魔法の粉を入れるよ〜…(ばしゃばしゃ、泡が出来る)」

子:入れて

:ちょうだい

魔法の粉を自分の洗面器に入れ、子ども達は夢中になって泡作りをする。

保:もっと、もっと泡を作って泡保育園にしちゃおう!!

洗面器の中にストローを入れ、息を吹き込んでいくと、泡がどんどん溢れ子ども達がキャーと喜びだす。保育園が泡になっちゃうよ!?と心配する子も見られた。

出来たたくさんの泡を見て、カップの中に入れ、ビール!ケーキ!!と食べ物に見立てて遊び始めたり、お風呂ごっこで頭に泡を乗せ、頭を洗いだすと、周りの子も真似っこ遊びをしたり、個々のイメージから楽しさが周りの子に広がっている様子が見られた。

【0歳児】



【1歳児】



【2歳児】



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【0歳児】

・色水を入れたビニール袋を0歳児が持つには、もう少し色水を少なくし、持ちやすい重さにすればよかった。しかしながら、色水の色や、袋の中で浮き上がる水の泡には気が付き、何度も繰り返し見る姿があった。水が弾けて“ポワン”と泡が出る様は、見る度に「あー！」と声を出して

驚き、喜び、歓喜の声を上げていた。この活動によって、感触遊び・美術活動・化学活動の芽生えが育まれたと思う。

【1歳児】

・カラフルな色の違いには気づいて、色の名前がわかる子どもは声に出したりして楽しんでいた。これまでに何度か氷を触ってみる体験をしてきていたので、躊躇なく触れることが出来同じ色の氷を近づけたり、重ねたりする姿が見られた。タライに入れてしまったことで、氷に映る光の美しさに気付くまでにはいかなかったのが残念だった。

【2歳児】

・「魔法の粉」「泡の保育園」という保育者の言葉に子ども達の目が輝き、ワクワク感が伝わった。魔法の粉で泡を作ろうと夢中になっていたが、やはり限界もあるので保育者がストローで泡作りをし、たくさんの泡を作り遊びました。子ども達の遊びの展開を見て、保育者が一味加えることで遊びの楽しさも広がり、個々のイメージが形となって表現される姿が見られた。

【全体】

子ども達が水・氷・色水・泡と水を使った色々な経験をするため、エントランスの大きな水場を利用した。身体を流したり、必要な水がすぐ使えたり、乳児でも安心して遊ぶことができた。また、エントランスは滑りやすいのでマットがある事で保育者も子どもと一緒に安心して遊ぶことが出来た。